歴史地震
第39号 (2024) 224頁

［講演要旨］

大分県で進む災害データアーカイブの取り組み

篠田　海遥（大分大学）

§1. はじめに

平成 29 年 7 月九州北部豪雨が発生したことをきっかけに，大分大学減災復興デザイン教育研究センター（CERD）及び NHK 大分放送局は「大分県災害データアーカイブ（以下、「災害データアーカイブ」）」のプロジェクトが発足した．これは，過去に発生した災害が再び同じ場所で深刻な被害をもたらしていることがあり，その地で起きた過去の災害が分かるシステムを作成することを目的としたものである．過去の災害の記録が残る歴史資料を収集し，データアーカイブ化した上で 2019 年 4 月に NHK 大分放送局の WEB サイトにて公開した．その後 2020 年 1 月に大分大学 CERD にサーバーが移され（https://archive.cerd-edison.com）現在に至る．

§2. 災害データアーカイブの仕組み

災害データアーカイブは，「災害データ」と「被害データ」の二種類で構成されている．「災害データ」は災害そのもののデータで，「被害データ」は，災害によって生じた地域ごとの具体的な被害の情報である．「被害データ」は大分県の地図上に表示することが可能である．

災害データアーカイブに残されている災害の種類は，「地震災害」以外にも，「火山災害」・「台風」・「風水害」・「土砂災害」・「雪氷災害」・「火災」・「日照りの害」・「災害伝承碑」に分類されている．「災害伝承碑」は，災害後に災害の様相や被害の状況などが記載されている石碑やモニュメントのことである．

本稿では，大分県で過去に発生した地震災害がデータアーカイブとしてどのように活用されているかを焦点に充てて災害データアーカイブの取り組みを紹介する．例として，大分県で被害が大きかった「1596 年慶長豊後地震」，「宝永 4 年 10 月宝永地震」と，「昭和 50 年 4 月大分県中部地震」を挙げる．

§3.1 1596 年慶長豊後地震

1596 年に発生した慶長豊後地震は，別府湾を震源として現在の別府市・国東市・大分市・日出町・杵築市・杵築市で津波、山崩れ等の大きな被害を出している．災害データアーカイブには 46 件の被害データが記録されている．先にも述べたように被害データは地図上に表示することも可能であり，図には本災害による被害データを地図上に表示している．

§3.2 1707 年宝永地震

1707 年に発生した宝永地震は，東海から四国沖の太平洋海底の南海トラフを震源とする地震であり，関東から九州までの広い範囲で大規模な被害をもたらした．大分県内では，揺れや津波が到達したものの，被害は石垣が崩壊した等の小さなものであった．災害データアーカイブにはこの地震による災害伝承碑 2 件を含む 41 件の被害データが記録されている．

§3.3 昭和 50 年 4 月大分県中部地震

1975（昭和 50）年 4 月に発生した本地震は，大分県中部を震源として九重町・大分市・由布市・竹田市を中心に建物の倒壊，道路の決壊，山崩れ，墓石の転倒等の被害が発生した．災害データアーカイブでは 18 件の被害データが記録されている．本地震のような比較的近年の地震では，テレビ技術が発達しており，実際に NHK で放送された映像もデータアーカイブ化されている．

§4. 現状と今後の展望

近年災害が発生した際には，大分大学の EDISON 等のデータを収集し，情報を集約してデータアーカイブ化，適宜公開している．　また，新たに過去の災害の歴史資料が発見された場合も同様にデータアーカイブ化を行っている．

災害データアーカイブは，歴史の中に埋もれている問題を表面化し，地域にお住いの方々に伝えることを目的としている．現在は，防災士による行政活用や，地域の防災教育に貢献している．

今後は，災害年表を作成，データをさらに発展させていくとともに，データベース連携等を行い，現在公開されている大分県の防災アプリの機能として新たに導入するなど，今後も防災・減災に役立つものを実装予定である．

図．災害データアーカイブを利用した 1596 年慶長豊後地震の被害データマップ